



紙まつり (7/27・28)



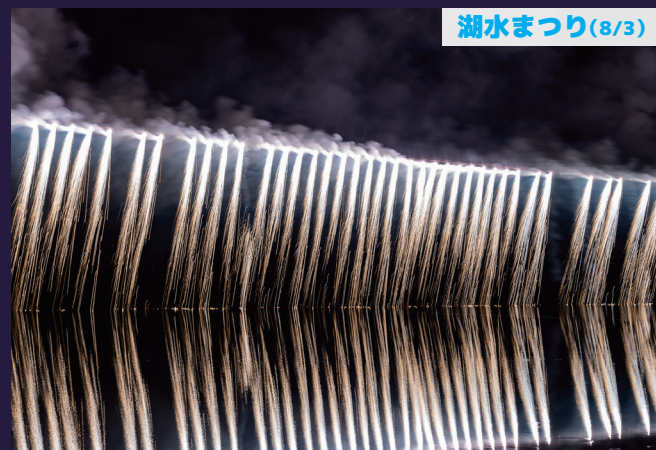
土居夏まつり (8/15)



新宮盆踊り大会 (8/11)



日本一の紙のまち 四国中央市の 夏まつり 2024



湖水まつり (8/3)



かわのえ夏まつり
花火大会 (7/13)



みなと祭 (7/23~25)



戸羽 太 様

いつか来るその日のために 防災シンポジウム開催

7月13日、「災害後を想定して今から行動しよう」をテーマにした防災シンポジウムが、こちゅうホールで開催されました。登壇した前・陸前高田市長の戸羽太さんは、「どこかで地震が起きた時、自分ならどう動くかを考えて欲しい。後悔しないように自分の身は自分で守ろう」と呼び掛けました。

写真 告知端末を持つ四国中央テレビ
大西誠治プロジェクトリーダー(右)
と、三木特種製紙 三木慎一郎常務取締役(左)



紙のまちを支える人たちに安心を 紙関連工場に防災告知端末設置

市と四国中央テレビは、操業音などにより災害発生を伝える市内放送が聞こえにくい工場内に、防災告知端末を設置する事業に取り組んでいます。
7月18日には、三木特種製紙(株)(三木雅人代表取締役社長)の寒川工場に同端末を設置し、緊急放送のデモンストレーションをしました。



終戦から79年 終戦記念日に各地で祈り

終戦から79年を迎えた8月15日、全国各地で戦没者を追悼し平和を願う式典が行われました。
本市においても15日から2日間にわたり、三島公園(中曽根町)内の慰霊塔が開帳され、訪れた人たちが戦争の犠牲となった人たちのご冥福を祈るとともに、恒久平和の実現を誓いました。



工事の安全を願って 北地区交流センター(仮称)安全祈願祭

7月26日、土居町蕨崎の北地区交流センター(仮称)建設予定地で、工事関係者や地元住民など約60人が列席し、安全祈願祭が行われました。列席者らは、工事の安全を願うとともに、新たな地域の交流の場の誕生に期待を寄せました。
北地区交流センター(仮称)は、令和7年夏頃の開館予定です。



マドンナジュニア愛媛が 軟式野球の全国大会に出場

7月27日から石川県で開催された「全日本女子学童軟式野球大会」に、マドンナジュニア愛媛の市川葉月さん（中曽根小6年・右写真左）と眞鍋夢羽さん（関川小4年・同右）が出場しました。大会の前日に市役所で出場報告をした2人は、「練習の成果を発揮してチームみんなで頑張ります」と意気込みを話しました。

そして8月9日には、同月22日から京都府で開催される「全日本中学女子軟式野球大会」に出場する、同じくマドンナジュニア愛媛の大垣結奈さん（三島東中3年・左写真中央左）、寺尾結奈さん（土居中1年・同中央右）、鈴木優恵さん（三島西中1年・同左）、石川心結さん（川之江南中1年・同右）が篠原市長を表敬訪問。「それぞれの持ち味を生かしチームの勝利に貢献します」と意気込みを伝えました。

日本一の紙のまちの礎を築き、今年3月に市の花に制定された「ミツマタ」をもっと多くの人に知ってもらいたいと、地域おこし協力隊の大廣隊員が企画し、本市在住の紙アクセサリー作家・松本莉央さんが講師を務めたワークショップが、8月10日と11日の2日間、霧の森ふれあい館でありました。

参加者たちは、皮を剥いだ後のミツマタの枝を細かく切り、水引などで好きな装飾を施して作品を作り上げました。お盆前の3連休とあつて連日全国から参加があり、東京から来た中学生は、「水引がとても面白い。愛媛の新しい魅力を知りました」と話しました。



ようこそ紙のまちへ ミツマタワークショップ

夏の富郷ダム・法皇湖で華麗に舞う ウェイクボードの全国大会開催



7月19日から21日にかけて、日本ウェイクボード協会主催の「ウェイクシリーズ法皇湖大会」が、富郷町津根山の法皇湖（てらの湖畔広場）で開催されました。全国の名だたる景勝地で開催されるシリーズの3戦目となる本大会には、全国からプロ選手を含む延べ250人が出場。富郷の深緑に囲まれた満水の法皇湖で、磨き上げられた技の数々を披露しました。

ウェイクボードはモーターボートに引かれながら水面を滑り、ジャンプや回転などの技を競うもので、エンジン付きのボートの法皇湖乗り入れは、今回が初めてです。



関川の緑を未来へつなぐ 土居ラブリバー推進協議会が大臣表彰



30年以上にわたり、地域ぐるみで河川の美化活動を続けている「土居ラブリバー推進協議会」（越智滋会長）が、緑化の推進や花と緑の愛護に顕著な功績のあった団体を表彰する「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰を受賞しました。同協議会の受賞は、平成17年に続いて2回目です。

「伝える」技術を学ぼう ジュニアICTリーダーワークショップ



7月20日、三島小学校で情報発信を学ぶ研修会があり、市内中学校のジュニアICTリーダーら31人が参加しました。参加者は、グーグル社の講師から、読み手の視点で作るスライドのコツや画像の利用方法などを学び、「日本一の紙のまち」などをテーマに、市の魅力をプレゼンテーションしました。

目指せ全国制覇 四国中央男子JVCが全国大会出場



6月の県大会で見事優勝を果たした小学生バレーボールチーム「四国中央男子JVC」が、8月6日から東京都で開催された「全日本バレーボール小学生大会」に出場しました。7月17日に篠原市長を表敬訪問した同チームは、「一戦一戦全力でプレーし、全国制覇します」と意気込みを伝えました。

エリエールスポーツクラブの3選手が ジュニアオリンピック水泳大会に出場



8月1日、エリエールスポーツクラブ所属の森下泰明さん（三島東中1年・写真中央）、脇栞那さん（川之江南中1年・同左）、星川中1年・同右）、星川夏伊さん（南小5年・同右）が篠原市長を表敬訪問。同月に東京都で開催されるJOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会などに出場することを報告しました。

市長の ひとりごと



四国中央市長 篠原 実

猛暑、酷暑、残暑、スリーパット…

昔々、7月に入り、夏休みが始まり、暑い暑いと言いながらも、随分過ごし易くなつてくると、セミの鳴き声も終わり、赤とんぼが群れを成して飛び始める。段々夏休みも残り少なくなってきた寂しさや心の多くを占め、高校野球の最終盤を見ていたことを思い出す。

毎日自分がしなければならぬことを、はじめをつけて、焦る気持ちを抑え、真夏の太陽に負けないように頑張っているが、自分の思うように進行しているとは言えないことも蓄積している。なるようにしかならないと開き直ってみても、少年の頃の感情に似て複雑な心持ち

である。夏の夕方、沈む夕日に同情して「もう少し頑張つて」と、声をかけたくなるのは年齢を重ねてきた証だろう。

背中から多くの人の励ましや叱咤が聞こえてくる。有難いね！

あと少し、あと少しと朝日に負けないように、残暑厳しいが知らん顔して、自分に負けないように、道路わきの電柱を数えながら踏ん張っているのだ。

人の気持ちというのは面白いね。つくづくそう思うね。

市販のアイスクリームを、冷めたコーヒーに入れて飲むのもすごくうまいよ！